

研修医レター



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530

E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

平成28年6月発行

研修医の皆様方へ

和歌山県医師会ではこれからの日本の医療を担っていく研修医の皆様には「医師会」という組織や、その活動の一端をお知らせし、理解して頂き、また皆様からの素直な御意見もお聞きできれば、という双方向の関係を築く目的で「研修医レター」を発行させて頂いております。その中には、女性医師の皆様のこれからの指標になるようなコーナーもございます。

研修医の皆様を含め、多様な御意見等をお待ちしております。

和歌山県立医科大学附属病院 卒後臨床研修センターの役割

和歌山県立医科大学附属病院
卒後臨床研修センター

センター長 園木 孝志 先生



研修医の皆さん、こんにちは。平成27年4月に和歌山県立医科大学附属病院卒後臨床研修センター長を拝命し卒後研修に関わることになりましたが、同年9月からは新しい専門医制度におけるプログラムの準備にも首を突っ込みました。「初期研修必修化」や「新しい専門医制度」が生まれた背景の一つに、「患者さんからの視点」があると感じています。困っている人に「医師」であれば何科であろうと提供できる「基本的な技能や態度」を習得するのが、初期研修でしょう。また、患者さんに対して「専門医」（たとえば内科専門医）であればサブスペシャリティーが何であろうと「今後の診療の方向付け」を習熟することが、新しい専門医制度でしょう。二つの制度の根底に流れているフィロソフィーは「医師には幅広い知識の上に立った専門性を持ってもらいたい」だと思います。研修医の皆さん、目の前にいる患者さんの診療を大切にしてください。そして、他職種の方々とコミュニケーションをとり多彩な視点を学んでください。皆さんが、未来の医学・医療を支える医師になるよう心から応援しています。

決定! 第5回 日本医療小説大賞発表 日本医師会

平成27年1月1日~12月31日までに書籍の形で発行された作品で、医療をテーマとした小説、あるいは医療を素材としている小説(ノンフィクションは除く)50作品の中から選考し、下記の4作品を候補作品として決定し、最終選考により「長いお別れ」中島京子氏が大賞に選ばれました。

ご一読ください。

中山 七里氏 「ヒポクラテスの誓い」

中島 京子氏 「長いお別れ」

朝井まかて氏 「藪医 ふらここ堂」

東野 圭吾氏 「人魚の眠る家」

「長いお別れ」

認知症、日々起きる不測の事態に右往左往するひとつの家族の姿を通じて、終末のひとつの幸福が描き出される。著者独特のやわらかなユーモアが光る傑作連作集。



平成28年4月7日(木)

於：ホテルアバローム紀の国

(次号へ続く)

● 病院解説本 ●

お手元に届いていなく、
御希望の方は
県医師会まで御連絡を!



先輩医師の体験記

和歌山労災病院 第2呼吸器内科部長
辰田仁美先生



大学での研修医、大学院、関連病院での勤務を経て、現在は和歌山労災病院で呼吸器内科に勤務しています。

研修が始まった頃に「今日できる仕事を明日に持ち越さない。」と2年上の先輩から言われました。当初、簡単な事に思いましたが、受け持ち患者の人数が増えるに従い、すべきことが相乗的に増加し、泣きたい気持ちになりました。最近学会の抄録をWebで送りますが、郵便で送っていた時代(和歌山県立医大がまだ公園前にあった頃)に、締め切り日の午後11時頃に和歌山中央郵便局に書留を出しに行った苦い思い出があります。

2つ目は、「病理解剖の同意が得られるように診療する」ということです。病状が改善して退院する時、患者は治療に満足していますが、すべての人が元気に退院するわけではありません。死亡確認の後で病理解剖のお願いをした時に、診療に満足していなかったら、承諾され難いです。病理解剖させて頂いた忘れられない患者さんがいます。お酒が好きな70歳代の男性で、切除不能の肺癌でした。入退院を繰り返しながら抗がん剤治療を行っていました。入院後は週末の外泊が楽しみで、金曜日の血液検査の結果を毎週楽しみに待っていました。その後徐々に病状が進行し、全身の衰弱と左鼠径部の痛みで外泊できなくなりました。亡くなる1週間前ぐらいにご家族から死ぬ前に大好きなお酒を飲ませてやりたいと言われ、個室入院だったので特別に許可しました。亡くなった時に、ご家族から病理解剖の申し出を頂きました。病理解剖の結果、左鼠径部の痛みはCTでは読み取れなかった筋肉と軟部組織への癌細胞の浸潤と判明しました。Autopsy Imagingが徐々に浸透してきていますが、実際の解剖で初めて判明することもあることを再認識できました。後日、病室での最後の晩酌のお礼と病理解剖がご本人の遺言であった旨のお手紙を頂きました。

最後は「日本の伝統文化に親しむ」です。学生時代から茶道に親しみ、30年程続けてきましたが、私にとって忙しい臨床から離れて肩の力を抜ける時間でした。仕事以外に自分の時間を持ち、医療者以外の人と交わり、世間の常識を養うことも必要です。お茶の点前は順序や道具の置く場所の決まりが多いのですが、後の所作を効率良く、美しくするためです。先輩の先生方が流れるように手技・手術ができるのは、一步先を考えて(無意識かもしれませんが...)機器の扱い、配置を行っているからで、私は諸先輩方を見て、真似をして、学びました。最近では電子カルテの効率的な使い方など、若い先生から学ぶことも増えてきました。

現在は、当院で女性外来を開設している関係で、働く女性のストレス(ストレスの数値化)についても研究しています。医師として病気を治すことも重要ですが、予防に目を向けて健康に働き続けるお手伝いができればと考えています。

ワークライフバランス講義

講義：「医学生のためのキャリア形成入門～
自分のキャリアをデザインしよう～」

演者：秋田大学 医学部総合地域医療推進学講座
准教授 蓮沼 直子先生



日時：平成27年11月12日
和医大病院臨床講堂Iにて
同大学医学部4年生を対象に実施

- ワークライフバランスという言葉がよく使われるが、ワークとライフどちらかだけでなく、ワークライフシナジー(相乗効果)つまり、それぞれをすることでそれぞれが充実する。時間の使い方も充実する。プライベートが充実する方がワークにも磨きがかかり、新しい出会いもあるでしょう。子供や子供の両親との診察時に母親としての心理の理解が深まる場合もあるでしょう。この「ワークライフシナジー」という言葉を覚えておいて下さい。
- 私はキャリア=人生だと思う。キャリアにはアップもダウンもあまり影響ないと思うが、外的キャリア(外から見えるもの)(医師であり〇〇科であり、教員であるなど)内的キャリア(女性は〇〇に向いている等言われることがあるが、女性といっても体力、体格、能力は千差万別である。ひとくくりに考えるのは少し無理がある。問題は好きな事と向いている事が乖離している事である。好きな事は頑張れるという傾向はある。自分は何ができるか、何が得意か、何が幸せか、何に価値観を見出すかが内的キャリアである。)今皆さんはまだ早いですが医師になったら何をしたいのかアンカーは何かを考える必要がある。
- 自分自身は個人的事情で3年半休職した事がある。この間2児を出産したが、復帰した時その間の日進歩の医療の進化・変化に驚愕した。完全に辞めてしまわない方がよいなと自分自身感じた。その後、大学の職員として復帰したが「計画通りにはならない」「卒業した時には思っていない方に行った。」と感じている。いろいろな選択肢があるので10年後ぐらいを目途に大きなビジョンを持ち細かく考える必要はない。
- 医学部は医師という職業が決まっているコースの一本道であるが、山登りの一本道のように必ずしも山頂に到着するとは限らず、一本道キャリアのつもりが波乗りキャリア(実際海に入ると想定外の状況である)である場合も多い。女性の場合、波乗りキャリアになる傾向がある。最近言われた出た事であるが、結婚・出産が遅くなって来ており、子供の世話・親の介護の両方に関わるダブルケアラーとなる場合もある。

(次号に続く)

女性医師メンター制度について

平成27年度より経験豊富な先輩(メンター)が後輩(メンティー)のキャリア形成上の課題や悩みの解消を援助する制度が始まりました。詳細は県医師会ホームページまたは関係書類を御覧下さい。

◆日本医師会女性医師バンク◆

バンクのコーディネーターは全員医師です。男性女性問わずバンクにご相談、求人、求職の成立はすべて無料です。電話番号は03-3942-6512です。お気軽にご相談下さい。

(文責：和歌山県医師会 木下智弘・榎本多津子)

医師会研修医会費無料化について

和歌山市医師会・和歌山県医師会・日本医師会、すべて研修医期間2年間は会費無料です。

【入会手順・お問い合わせ】

和歌山市医師会事務局(073-445-5199)に「和歌山市医師会研修医会員について知りたい」とお伝え下さい。

和歌山市医師会 URL: <http://washii-unet.jp>